

〔様式5〕令和3年度 羽村市立富士見小学校 学校経営報告（学校評価報告表） 学校教育目標 *◎やさしく ○かしこく ○たくましく* 後期・3学期

【目指す学校像】1「人も自分も大切に」を合言葉に子供も教員も人権意識をもって教育活動を進める学校 2 主体的・対話的で深い学びの実践により、子供たちが生き生きと学ぶ学校 3 家庭・地域社会との相互理解・協力を図り、学校の役割をよりよく果たしてその信託に応える開かれた学校 4 教職員が教育活動の充実のために指導力を磨き合い、高い同僚性のもとに一致協力して組織的に教育活動を展開できる学校
 【目指す児童像】1 自他の違いを認め尊重し、多様な人との関わりを通して、共生社会の一員としての資質を高めていく児童 2 調べたことや既習事項をもとに自分の考えをもち、他者の考えと比較考察し、よりよい解決策を求めようとする児童 3 基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康で最後まで粘り強くやり遂げようとする児童
 【目指す教師像】1 人権意識をもって教育活動を進める教師 2 子供たちのよい点を認め、適時に価値付けられる教師 3 子供たちが生き生きと学ぶための授業改善を進める教師 4 身なり言葉づかいの配慮ができる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・学力調査の分析を踏まえた授業改善 ・効果的ないじめ授業の実施 ・縦割り班活動における第6学年児童の主体的なかかわり ・文化プログラム等の積み上げ
 【課題】・不登校児童への対応 ・服務事故防止の徹底 ・新学習指導要領の趣旨に即した実践の積み重ね ・ミドルリーダーの育成 ・働き方改革の推進

3つの施策	中期経営目標 (施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	3学期 ・後期評定	実態や改善に向けた意見	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	3学期 ・後期評定	実態や改善に向けた意見
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	家庭学習の学級平均実施率を90%以上の学級を全体の80%以上にする。	4	4	・コソコソノートは子供たちに浸透してきているので、学級間の温度差を少なくできるように取組の方法を共有できるようにする。	「家庭学習の習慣が身についている。」と回答する保護者を90%以上にする。	4	1	宿題、コソコソノート等毎日行っているが、習慣が身に付いている感覚が乏しいため、自主的に取り組めるよう意欲付の仕方を工夫していく必要がある。
			3						
			2						
			1						
	②確かな学力の定着	高学年週に5回、中学年週に2回、低学年2週に1回の端末利用の学級を全体の80%以上にする。	4	3	・中学年以上の取組は想定以上に進展した。今後低学年の使用方法について、ICT支援員の協力を得て進めていくようにする。	「タブレットPCを授業でスムーズに使うことができている。」と回答する児童を80%以上にする。	4	4	想定以上に児童はタブレットの扱いを短時間で習得することができた。今後は情報モラル教育も含めて正しく使用できる資質・能力の向上を図っていく
3									
2									
1									
③特色のある教育の推進	1日1回以上発言できている児童が80%学級を全体の80%にする。	4	1	コロナ禍において、発言する機会が少なくなっている背景も踏まえ、今後発達段階に応じた発表の仕方等について力を入れて取り組んでいく必要がある。	「みんなの前で堂々と自分の意見を発表できる。」と回答する児童を80%以上にする。	4	1	コロナ禍において、発言する機会が少なくなっている背景も踏まえ、今後発達段階に応じた発表の仕方等について力を入れて取り組んでいく必要がある。	
		3							
		2							
		1							
④新しい課題に対応した教育の推進	学校の実態と一人一台端末の活用を踏まえた年間計画を作成する。	4	3	令和3年度、実践を積み上げられたため、令和4年度の教育課程において、実践の成果を計画に活かしていく。	タブレット使用時のモラル・マナーについて、トラブルをゼロにする。	4	2	ストリームへの不適切な書き込みがあった事例が1件発生した。令和4年度は、年間指導計画を整理し、確実に発達段階に応じた情報モラル教育を実施し、ネットトラブルゼロを目指す。	
		3							
		2							
		1							
⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	「教育活動全体を通して『人も自分も大切に』の視点をもって指導することができた」と回答する教員が90%以上になるようにする。	4	4	ことあるごとに、管理職からも「人も自分も大切に」をメッセージとして伝えてきた。教職員がその意を汲んで共通理解のもとに教育活動を進めることができた。	人も自分も大切にしながら学校生活をおくることができた」と回答する児童を80%以上にする。	4	4	「人も自分も大切に」は児童にも浸透しており、学級活動、委員会活動等で具体的な姿を発揮することができていた。	
		3							
		2							
		1							
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	新たな体制による月に1度の定例校内委員会を実施する。	4	3	月に1度の校内委員会は概ね実施できたが、十分に検討できていない状況がある。令和4年度は、月に2度の会議を設定する。	「学校は特別な配慮が必要な児童に対して個に応じた支援を行うことができている。」と回答する保護者を80%以上にする。	4	1	対応は講じているが、十分に成果となっていないケースがある。校内委員会を充実させ、個の状況にあった支援策を講じられるようにする。
			3						
			2						
			1						
⑦子供たちが楽しく通える学校の実現	不登校状況(傾向)にある児童に対し、アセスメントをもとに新たな対応提案、実施している。	4	3	アセスメントを全員実施して、個別の対応を進めた。少しずつ効果が見られる児童もいるが、停滞している児童も見られる。令和4年度は長期休業日前に校内委員会にて個々の状況に応じた支援方法を検討するようになる。	・不登校状況(傾向)にある児童が、1月の段階で4月よりも家庭学習以外に教育を受ける機会を増やすことができている。	4	4	タブレット端末の活用により、令和2年度以上に学習の機会を設けられる児童が増えた。今後も個の状況に合わせた学習機会の提供を進めていく。	
		3							
		2							
		1							
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	体罰をゼロにする。	4	4	12月体罰調査において大きな課題は見られなかった。引き続き服務の順守を徹底していく。	・12月の体罰調査において体罰に該当する回答をゼロにする。	4	4	12月体罰調査において大きな課題は見られなかった。引き続き服務の順守を徹底していく。
			3						
			2						
			1						
⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	9月以降、全ての教員が月に1度以上他の教員の授業を参観している教員を80%以上にする。	4	2	空き時間がほとんどない教員は他の教員の授業を見る機会が少ない。互いに見合わせる方を仕組みとして講じる必要がある。	・「授業が楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	4	4	ほとんどの学級で児童の授業の参加率が高い状況がある。今後も魅力ある授業づくりのための校内研究等を充実させていく。	
		3							
		2							
		1							
⑩保護者や地域住民の協力・参画	各学年年間1回以上、地域人材を活用した授業を行っている。	4	2	コロナ禍ということもあり、外部の方から指導を受ける機会が少なくなった。令和4年度は、学校ボランティアの仕組みを見直し、学校に協力いただける地域人材の発掘を進める。	・「学校は、保護者及び地域人材を活用した授業を効果的に実施している。」と回答する保護者を80%以上にする。	4	2	コロナ禍ということもあり、外部の方から指導を受ける機会が少なくなった。令和4年度は、学校ボランティアの仕組みをつくり、学校に協力いただける地域人材の発掘を進める。	
		3							
		2							
		1							
学校の特徴	学校の特徴や独自性のある取組	1日1回以上発言できている児童が80%の学級を全体の80%以上にする。	4	1	コロナ禍において、発言する機会が少なくなっている背景も踏まえ、今後発達段階に応じた発表の仕方等について力を入れて取り組んでいく必要がある。	「みんなの前で堂々と自分の意見を発表できる。」と回答する児童を80%以上にする。	4	1	コロナ禍において、発言する機会が少なくなっている背景も踏まえ、今後発達段階に応じた発表の仕方等について力を入れて取り組んでいく必要がある。
			3						
			2						
			1						